

第2回子ども・子育て会議 事業評価見直しについての各委員意見一覧

【資料1】第1回子ども・子育て会議部会
令和2年11月12日

No.	委員名	意見内容	評価見直しに盛り込むかどうか	理由
1	藪本委員	数値目標や指標を設定する際に、どうしてその数値を用いるに至ったか根拠を示してほしい。	○	
2	手塚委員	何をもってA評価、B評価とするか、明確な評価基準を示してほしい。	○	
3	手塚委員	事業を「行政として推し進める事業」「民間と協力して実施する事業」「市民と協働して実施する事業」の3つの視点から分けて欲しい。それぞれ事業の進め方が違うため、これを整理して評価に落とし込む必要がある。	△	計画における各事業の位置づけは、行政が主体的に実施する事業・市民が民間との協働による事業に分けられます。評価の視点としては各評価指標において整理していきます。
4	手塚委員	評価指標を「定性評価」(例:不安を感じる人の割合)と「定量評価」(例:ケース件数)を分けて欲しい。	○	
5	手塚委員	実情を反映していない指標がある。(例:子ども食堂ネットワーク団体数コロナで現在活動できていないため、加盟団体数の推移では実情を把握できない。)	○	
6	手塚委員	基本理念を元に計画が構成されているため、事業評価もそれに紐づいた形で検討してほしい。	○	
7	柏女会長	千葉県の子どもの貧困計画のアウトカム評価では、「子どもが自身の将来に希望を持っているか？」等の指標を盛り込んでいる。	○	
8	田中委員	手法の評価を実施してほしい。(例:どれだけ市民団体に対し補助を行ったか)	△	本計画に位置付けられている事業に対する評価を行うため、実施団体に関わる直接的な評価は行いません。